



日本大学法学部新聞学研究所

2015 年度 連続シンポジウム：地域ジャーナリズムの課題と可能性②

東日本大震災が地域メディアに問いかけたもの

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から、まもなくまる 5 年の節目を迎えます。被災地の復旧・復興や、福島第一原発の廃炉作業等が長期化していることから、関連の報道も相当期間にわたって継続しています。そして震災関連報道は、その規模の大きさや期間の長さから、すでに狭義の「災害報道」の枠を超えたものとなっています。

他方、震災に関する社会的関心の低下や記憶の風化が指摘される中、ジャーナリズム研究の分野においては、これまでに蓄積されてきた震災関連の膨大な映像や資料を用いてどのような研究を行うのか、そこからどのような形で新たな問題設定をするのかといった、研究上の諸課題も浮上しています。

2015 年度の連続シンポジウム第 2 回目となる本シンポジウムでは、東日本大震災が、ジャーナリズムとジャーナリズム研究に何を問いかけているのかをテーマとします。

東日本大震災は、特に、被災三県と呼ばれるエリアのローカル放送局やローカル紙など、地域メディアに大きな課題を投げかけてきました。地域メディアは、震災からの復旧、復興にどのように向き合ってきたのか、そしてそこで問題となっていることは何かといった諸点をめぐる議論を出発点にしつつ、地域メディアと中央のメディアのあり方や、それらを研究対象とするジャーナリズム研究の課題や可能性について、多様な角度から議論を深めるシンポジウムにしたいと考えています。

日 時： 2016 年 2 月 20 日（土）13 時半（～16 時）

場 所： 日本大学法学部 10 号館 1031 講堂

プログラム

【パネルディスカッション】

- 糠澤修一（福島テレビ 代表取締役社長）
- 宿輪 智浩（IBC 岩手放送報道部副部長、『ニュースエコー』編集長）
- 武内 宏之（石巻日日新聞 常務取締役）
- 古澤 健（NHK 報道局 チーフ・プロデューサー）
- 大井 眞二（日本大学法学部新聞学科教授）

【司会】 米倉 律（日本大学法学部新聞学科准教授）